まほろん通信

Fukushima Cultural Property Center Shirakawa since2001

2021 春号 VOL.79

2001年開館記念イベントのようす

まほろんは
今年開館20周年!
表紙は、開館当時の
まほろんの写真だよ!

まほろん開館20周年を迎えて

おしえて!法正尻遺跡展2

担当チームメンバーインタビュー

しらべてみたよ

思い出まほろん

実験考古学のススメ

まほろんでは新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に取り組んでいます。
特に体験活動については、職員との接触や近距離での活動を控えております。
ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

まほろん開館20周年を迎えて

まほろん開館２０周年！
特別な一年の予定をご紹介します。

文：廣川　紀子（主任学芸員）

2001年（平成13年）7月にまほろんは誕生しました。多くの方々に支えられながら、今年で開館20周年を迎えます。この特別な年を迎えるまほろんでは、さまざまな企画を用意して、皆さんのご来館をお持ちしています。

企画展示は、20周年記念企画として計４回の開催を予定しています。昨年度に大変好評だった、国指定重要文化財の法正尻遺跡の出土品を中心とした企画展を継続し、出土品を時期ごとに、２回に分けて開催します。２つの展示の間には、小中学校の夏休みに合わせて、自然科学での分析による文化財の新知見を紹介します。年明けの展示では、戦後から大規模開発によって発掘調査が本格化するころまでの福島県の考古学の歩みをたどります。また、それらの展示に関連する文化財講演会やシンポジウムも開催予定です。

企画展「法正尻遺跡展１」での観覧の様子

新しい取り組みとしては、コロナ禍でも在宅で体験学習を行うことができるようなweb配信を充実させていきます。例えば、実技講座「おうちでできる土器づくり」は、web配信した土器作りの動画を視聴しながら自宅で縄文土器を製作してもらうものです。作品は、乾燥後にまほろんまでご持参いただき、焼成してお渡しします。また、ご了承頂ければ、館内に作品を展示させていただく予定です。

感染症対策下での体験活動室の様子

◇まほろん20周年企画展◇

「法正尻遺跡展２－縄文人の移動と交流－」
4.24(土)～6.20(日)

「文化財を科学する（仮）」
7.22(木)（予定）～9.20(月)

「法正尻遺跡展３
－縄文中期から後期へ－」
10.16(土)～12.19(日)

「戦後ふくしまの考古学（仮）」
1.22(土)～3.21(月)

◇まほろん20周年記念館長講演会◇（事前申込制）

全５回　5.29(土)　7.31(土)　9.18(土)
12.18(土)　2.26(土)予定

◇まほろん森の塾21期生◇（事前申込制）

申込受付期間　4.6（火）～5.30（日）
全５回　6.20(日)　8.1(日)　9.19(日)
10.16(土)　11.21(日)予定

実技講座「土器づくり上級編」の様子

◇実技講座◇（事前申込制）

「web配信おうちでできる土器づくり」
4.24～6.27(申込受付)

「大堀相馬焼に挑戦」
全２回　8.8(日)8.29(日)予定

「土偶づくり（仮）」　10.3(日)予定

「土器づくり初級編」10.31(日)予定

「土器づくり上級編」全３工程
12.11(土)，12(日)
14(火)～16(木)3.6(日)予定

「ガラスづくり実験（仮）」全２回
2.13(日)，20(日)予定

「まほろん森の塾」でのナタネの種まき

※詳細については、開催時期が近くなりましたら、まほろんのホームページや館内掲示でお知らせします。事前申込は、およそひと月前からの受付となります。新型コロナウイルス感染症の拡大状況などにより予定が変更となる場合があります。

来館される前に、次の項目をチェック！
□体調良好　□マスク着用　□手指消毒　□対人距離２ｍ　□小声での会話　□館内での食事不可（飲料水は可）　□体験活動は職員の補助なし

おしえて！法正尻遺跡展２

担当チームメンバーインタビュー

4/24（土）開幕の企画展「法正尻遺跡展２―縄文人の移動と交流―」の魅力をお伝えします。

冬の「法正尻遺跡展１」に引き続いて、2021年春の展示は「法正尻遺跡展２」となりました。どんな展示内容でしょうか？

磐梯町・猪苗代町にある法正尻遺跡から出土した縄文時代中期前半（今から約5500～5000年前）の資料を、国の重要文化財に指定されたものを中心に多数展示しています。また、法正尻遺跡がどんなムラだったのかについても解説しています。

前回の法正尻遺跡展１から変わった点はありますか？

展示している資料については第１回からすべて入れ替えています。また、第１回に示した中期前半の集落の姿に加えて、出土品から見た他地域との交流にも焦点を当てた展示となっています。

見どころは？

やはり、国指定重要文化財に指定された土器・土製品、石器・石製品がズラッと並ぶ様子です。特に、北陸地方の糸魚川周辺特産のヒスイを使った大珠はかなりの優品です。

どんなところが楽しめますか？

色々な形、装飾や文様を持った土器がたくさん並んでいますので、違いや変化などを楽しんでいただけます。土器は出土した遺構ごとに展示して、出土した状況も示していますので、「これらの土器が同時に使われていたのか！」みたいな楽しみ方もできると思います。また、好きな土器に投票してもらう「JOMONドキッ！と総選挙」を展示室内で開催していますので、お気に入りの土器を探してもらうのもいいかもしれません。

最後にみなさんに一言どうぞ！

福島県にもすごい縄文遺跡があることを感じ取れる展示ですので、ぜひお越しください。

インタビューに答えるミスターD

写真：法正尻遺跡出土 縄文土器

しらべてみたよ

（公財）福島県文化振興財団
遺跡調査部 遺跡調査課
主幹 阿部 知己

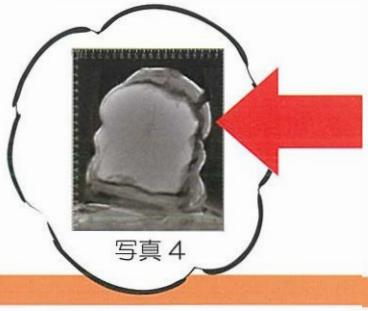
写真１の資料は、なんだと思いますか？

これは馬具といって、人が馬に乗るため、馬に装着したさまざまな道具のうちの一つです。

写真２は、白河市笊内37号横穴墓（今から約1400年前）というお墓から見つかったもので、馬の口のあたりにつけられていた金具（写真２）です。今回はCTスキャンを用いて、馬具をこわさずに調べてみました。

すると、金具に大小のつまみをとりつけた様子（写真３）や、表面に金色のとても薄い板を張り付けている様子（写真４「←」のところ）、そして外側から分からなかった隙間の部分なども確認できました。

現代科学の技術の力を借りることで、1000年以上前のものであっても、これまで分からなかったことがいろいろと分かってくるなんて、なんだかワクワクしますね。



思い出まほろん

実験考古学のススメ

まほろん製鉄実験を振り返って
二人の元まほろん技師長に聞く

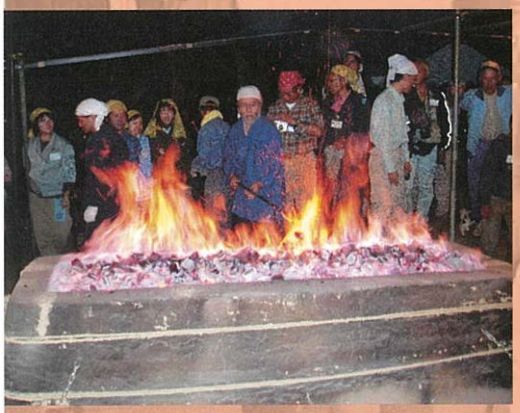
文：門脇　秀典（専門学芸員）

四角い炉に砂鉄や木炭が投入され、まばゆいばかりの炎が漆黒の闇を焦がす…。昼夜を問わず「踏みふいご」を踏んだ多くの体験者たちが固唾をのんで鉄ができる瞬間を見守る…。平成15～21年に4回にわたり実施された「古代の鉄づくり」は、まほろん20年史にその名を刻む、大イベントでした。

実験跡地を前に語る元技師長
左：吉田さん　右：能登谷さん

初代の製鉄実験の技師長であった吉田秀享さんは、「福島市立子山の刀匠、藤安将平さんとの出会いがなければ、イベントは成立しなかっただろう」と言います。当時、吉田さんは福島の古代製鉄炉では、炭素量の高いズク鉄を生産していたのではないかと考えていました。この想いを藤安さんにぶつけたところ、「それなら真の古刀が再現できるかもしれない」と実験への協力を引き受けていただけたといいます。

二代目の技師長であった能登谷宣康さんは、「まほろんで行う実験は遺跡から発見された遺構・遺物に基づいていなければならない、鉄ができることがイベントの成功ではなく、そこでできる副産物（鉄滓など）も出土品と同じでなければならない」と言います。その意味では、「私たちは古代の人たちの足元にもおよんでいないんだよ」と熱意を込めて語ります。



第2回　製鉄操業実験の様子

まほろんで行う実験は、「第一に遺跡から得られる考古学のデータに基づいていなければならない（考古学者の目）、第二に炉の中でおこる現象を科学的に解明し、遺物と見比べなければならない（科学者の目）、第三に実験中におきる現象（炎の色など）を瞬時に見極めなければならない（職人の目）、この「三つの目」をもつ人たちが協力し研究を進めることで、古代の技術にようやく触れることができるんだよ…」と二人の元技師長は未来の実験操業へ闘志を燃やし続けます。

表紙の2枚

大きな写真は、開館当時のまほろんを空から撮影したものです。体験広場の木々の様子や、周辺の建物の様子など、現在のまほろんの姿と少し異なることがわかるでしょうか。

また、小さな写真は、開館記念イベント時に行われた石器づくりのパフォーマンスの様子を写したものです。多くの方が熱心に見学されています。

まほろんの歴史の始まりを感じる２枚です。

INSTAGRAM & YOUTUBE

MAHORON_OFFICIAL
フォロー＆チャンネル登録してね

編集後記

２０周年のまほろん。生まれたての赤ちゃんが成人式を迎えたと考えると、感慨深いものがあります。大人になったまほろんは、一味ちがう…？良いところは、更に良く！今後も県民に愛されるまほろんであり続けたいと、改めて感じる編集作業となりました。

まほろん通信 vol.79
令和3年4月14日発行

開館時間　9:30～17:00（入館は16:30まで）
休館日　月曜日（月曜日が祝日・休日の場合にはその翌日ですが、GWとお盆期間中は開館します）／国民の祝日の翌日（土・日曜日に当たる場合は開館）／年末年始（12月28日～1月4日）
入館料　無料（体験学習の内容によっては、材料費が必要な場合があります。）

お問い合わせ
まほろん
福島県文化財センター白河館
〒961-0835　福島県白河市白坂一里段86
☎　0248-21-0700
fax　0248-21-1075
ホームページ　まほろん　検索